



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／谷口源太郎 鹿児島県立青少年研修センター 研修主事
森田 明敬 福岡県教育庁福岡教育事務所社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方

13:30~13:35

1 公民館を核とする青少年の地域参画と住民協働のまちづくり —「若鮎の遡上」環境整備の共育プログラム—

13:35~14:05

原 和正(鳥取県南部町 東西町地域振興協議会 会長)

東西町青少年共育の取り組みは、30代の女性公民館主事の選出に始まった。子どもたちが公民館業務の手助けを始め、近年では地域も学校も「共育」に参加している。公民館の手伝いは、子どもの成長とともに異世代間の交流に広がり、文化祭、夏祭り、運動会、環境整備事業などの運営を子どもたちが担うようになり、まちづくりの総合的事業へと拡大・拡充してきた。町を離れた学生たちも行事に参加するため帰省したりする。彼らがおのれのふるさとを愛することを学べば、いつかは「若鮎の遡上」のように帰って来る。「共育」の夢と理想はそこに存する。

2 高等学校が仕掛ける体験的地域学の新しい仕組み —地域を支え、地域に支えられる「やかげ学」—

14:10~14:40

室 貴由輝(岡山県矢掛町 岡山県立矢掛高等学校 教諭)

2・3年生を対象に2010年4月に開設。地域と連携した社会貢献・地域体験を核とした長期実習型の学習形態を採用し、内容・方法等については矢掛町、矢掛町教育委員会とそれぞれ協定を結んでいる。実習は週1回、2時間だが、2年生から3年生にかけ1年間、地域内の学校や福祉施設などの主要施設で体験し、その過程で異世代の人々と交流する。社会規範意識を身に付け、自尊感情のある自立した人間へと成長する。「やかげ学」は新しい体験的地域学への挑戦である。

ティータイム

14:40~15:05

3 “子ども アートワークショップ ユニット えりのり”の参加体験型生活・芸術教育 —つながろう、やってみよう、みつけよう!えりのりができること—

15:05~15:35

江里口弘美(佐賀県小城市 子どもアートワークショップユニット えりのり)

田中 紀子(佐賀県小城市 子どもアートワークショップユニット えりのり)

アートワークショップを企画・運営している。主な内容は子ども自身が手やからだを動かしながら行う、工作、お絵かき、ものづくり、音楽、科学遊びなどのワークショップである。活動場所は主として佐賀市や小城市の児童センター、文化施設、公民館などである。1年に1度主催する回遊式のイベントの開催や地域のイベントに参加。2010年は「夜びな灯明町あそび(佐賀城下ひなまつりサテライトイベント)」や「夏の終わりの小旅行—ひみつのまちなみのしまツアー(佐賀市歴史民俗館)」などを実施した。

4 社会貢献の異世代交流で自己変革する高校生 —身近なキャリア教育の組織化と地域交流の創造—

15:40~16:10

浅野 昌子(大分県国東市 大分県立国東高等学校 教諭)

国東高校はJRC(ジュニア・レッド・クロス)のメンバーを中心に学校ぐるみの福祉活動の輪を広げている。生徒の活動場所は保育園、高齢者福祉施設、各種文化施設などである。活動の紹介・調整・連携は市のボランティアセンターが担当してくれている。生徒の社会貢献実践は異世代の交流を拡充し、キャリア教育の一環ともなり、体験の数だけ生徒は変わって行く。活動成果を認められて各種の財政上の支援もいただき、「ボランティア・スピリットアワード」(全国賞)、「福祉優秀校」表彰(大分合同新聞社)等を受賞している。